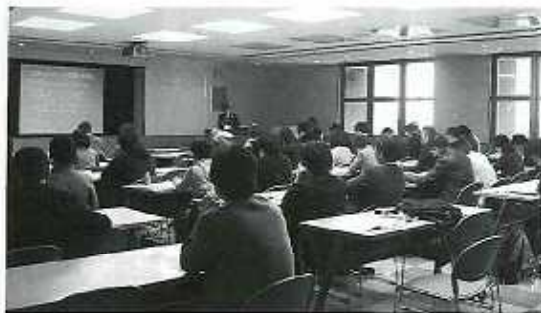


依存問題のR・S・Nが福岡で報告会と養成講座

全日遊連の第三者機関「ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」(R・S・N、西村直之代表)は12月2日、3日の2日間、福岡市で「ギャンブル問題活動支援報告会」と「第三回援助職者・サポーター養成講座」を開催した。

2日、中央区舞鶴の福岡県司法書士会館での活動支援報告会では、主催のリカバリーサポート・ネットワーク、大分セントラル・力武一郎代表取締役、稲村厚氏(稲村厚司法書士事務所)、北九州市立精神福祉保健センター、NPO法人・ワンデーポット、オフィスサーブから、それぞれの支援活動が報告された。

パチンコホール経営者として業界で初めて依存症問題に取り組んだ大分セントラルの力武社長は「最初のころはパチンコ屋がおかしなことをと、奇異な目を向けられるこ



3日の養成講座

事例から学ぶギャンブル問題への理解と対応

3日、春日市原町のクローバーラザでのサポーター養成講座は、医療、司法、パチンコホール、消費者相談施設、福祉関係者など約50名が参加して、午前9時半から昼休みをはさんで6時間、参加者は熱心にメモを取り、講演後の質疑応答でも質問が相次いだ。

テーマは「事例から学ぶギャンブル問題への理解と対応」で、具体的な事例の想定のもとに各分野の講師が講演した。

今回の養成講座は「対象者は大卒卒業後、就職、25歳のころからパチンコを始め30歳のころからパチンコ通いが頻繁になった。結婚直後に300万円の借金が発覚。相談者(妻)の貯金と保険を解約して返済した。このときに「もうパチンコはしない」という誓約書を書かせ、ローン会社のカードをすべて捨てさせたが1枚だけ隠し持ち、返済後も借金を繰り返した。新たに200万円の借金があることが発覚

した。家族は……。妻は夫を変えようとカウンセリングなどを勧めますが聞き入れてもらえない。夫の両親は、妻がしつかりしないからだと口を揃えて、妻も両親も早く借金を返済しないと不安でたまらない。本人は……。お金の問題を問いつめられると逆上する。まったく問題意識がない様子。最近では給与が振り込まれる口座を勝手に変更し、自分で使っている。気に入らないことがあれば暴言を口にして、時には、俺が邪魔なら死んでやる、と脅す」というケースを想定して4氏が講演した。

事例に対する4氏の講演

「情報収集のポイントと問題の整理」



(西村直之講師)
「ギャンブル問題への対応には、基本的な知識が必要。ギャンブル問題に見られる傾向は①人口の0.4%~4%程度が生産でギャンブル問題を抱える②男女の比率では男性の方が高い③男性は青年期早期、女性は青年期~老年期に問題が始まりやすい④金銭問題が合併しやすい⑤うつ状態になりやすい⑥自殺を考えた試みたりする⑦DVや児童虐待と関連しやすい⑧他の精神障害や依存問題と合併しやすい⑨犯罪行為を誘発しやすい⑩問題が隠蔽されて潜伏しやすい

問題解決には、表面化した問題だけでなく、多面的に問題を評価して、回復支援の長期的な方向性の設定が求められる」

「家族相談と回復支援」



(安高真弓講師)
「問題を抱えた家族の大きな特徴は、お金の問題にとらわれて、もっと大きな問題があることに気がついていないこと。だから、家族相談のポイント

は①いま何が起きているのかをいっしょに整理する②家族が問題と思っていないことにも目を向けて、介入や相談のポイントを探す③相談の根底には夫婦や家族のあり方といった「関係性の整理」という大きな問題があることを意識しておく、などが必要。そして、相談に来た人に「会うとホッとする」と言ってもらえる関係を作ることを目指すことが重要」

「借金問題への対応」



(稲村厚講師)
「借金はひとつの結果。問題が表面化すると関係者、特に家族は借金の返済ばかりに走る傾向が見られるが、借金問題への家族の介入は事態の深刻化を招くことがある。支援を行う側は①金融関係者

は、借金の返済ではなく原因へのアプローチ②司法関係者は、多重債務相談窓口の拡充による速やかな債務整理が間違えた介入になりがち③精神保健の相談員、援助職者は、安易に債務整理の手助けをせず金銭問題の背景にある精神的な問題に目を向けることが重要。債務整理には、目前の不安を解消するというメリットはあるが、裏返せば繰り返しの借金の可能性というデメリットがある。援助職者に求められるのは、債務整理ではなく借金問題の呪縛を解くこと」

「当事者への介入と回復支援」



(中村努講師)
「回復のための援助を考えるときに、周囲の人に持ってほしい認識は①病的ギャンブラー本人から助けを求めることはまずない②本人が自分の力ではどうにもならないと思いつつ、底つきと表現するが、状況的底つきと精神的底つきの違い③中途半端な支援は本人を追い詰めること④「病氣」という言葉を使えるだけ使わない、ということ。

回復に役立つ支援は①本人に相互援助グループの情報を提供する②ギャンブル以外の問題にも目を向け必要に応じて対処していく③支援を受ける必要を伝え続ける。早く仕事に復帰すること、頑張つて借金を返すこと、趣味を作ることなどは支援の役には立たない」